研究主題

中学校社会科における知識・技能の活用を図る学習活動に関する指導展開例の作成

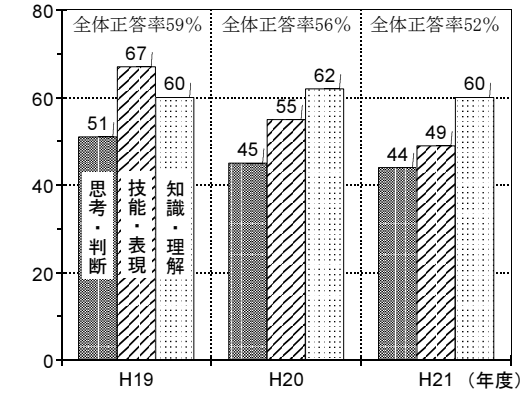
【研究担当者】　及　川　　仁
【この研究に対する問い合わせ先】
TEL　0198-27-2735　FAX　0198-27-3562
E-mail　kyouka-r@center.iwate-ed.jp

社会的な見方や考え方の育成

社会的な見方や考え方は「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の四観点から育成することが大切です。しかし，岩手県学習定着度状況調査の結果を見ると，「思考・判断」が他の観点に比べて低い状況が続いています。調査の報告書では，問題解決的な学習を充実させ，その中で知識・技能の活用を図る学習活動を行っていく必要性が指摘されています。

この研究は，「『活用』に関する指導資料」（岩手県教育委員会，2009）に基づき，知識・技能の活用を図る学習活動（以下「活用」）に関する指導展開例を作成し提示することをとおして，中学校社会科の授業の改善に役立てることを目的としたものです。

岩手県学習定着度状況調査中学校第２学年社会観点別正答率の推移（平成19年度～平成21年度）



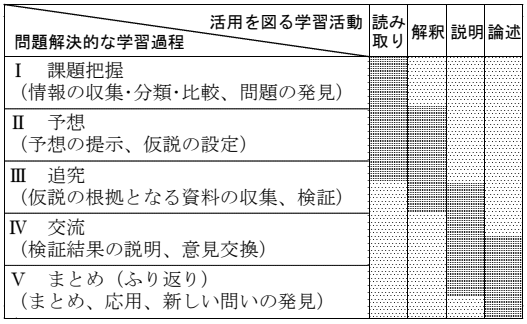
中学校社会科における「活用」

本研究では，中学校社会科における「活用」をつぎのようにとらえました。

「活用」	具体的な内容
読み取り	問題解決に必要な資料を収集・選択するとともに，資料から必要な情報や事実を読み取る
解　釈	読み取ったことを比較・関連付け・総合しながら再構成し，社会的事象の意味，意義を解釈する
説　明	事象の特色や事象間の関連を考え，それらを自分の言葉で表現する
論　述	考えたことを伝え合い，話し合いをとおして互いの考えを発展させる

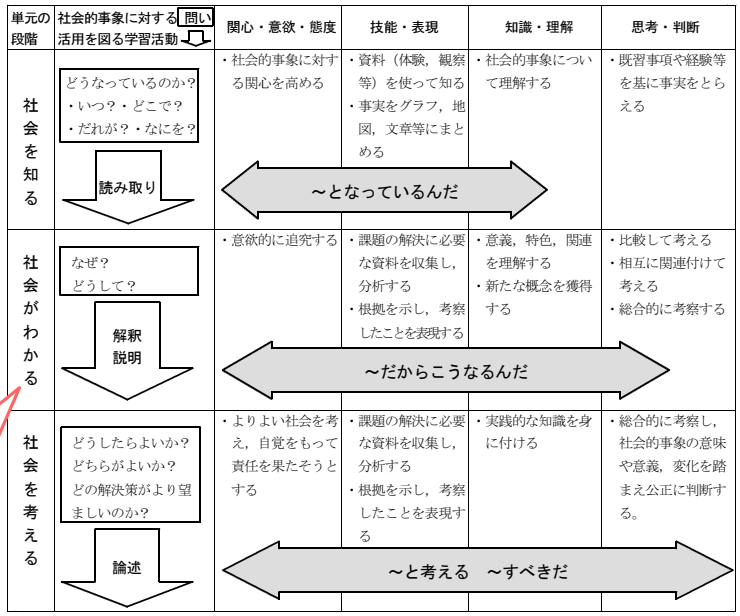
「活用」と学習過程との関係

「活用」と問題解決的な学習との関係，単元への位置付けについて，つぎのようにとらえました。



▲問題解決的な学習と「活用」の関係

社会を知る　：「読み取り」を主に位置付け，社会的事象の存在を認識する
↓
社会がわかる：「解釈」「説明」を主に位置付け，社会的事象の特色や事象間の関係を認識する
↓
社会を考える：「論述」を主に位置付け，社会的事象の中の問題に対しての未来予測や価値判断をする



▲「活用」を位置付けた単元構想イメージ

「活用」を位置付けた授業実践１　　－歴史的分野第２学年「明治維新」－

学習指導要領の内容

〔歴史的分野〕(5)近代の日本と世界

イ　開国とその影響，富国強兵・殖産興業政策，文明開化などを通して，新政府による改革の特色を考えさせ，明治維新によって近代国家の基礎が整えられて，人々の生活が大きく変化したことを理解させる。

単元に位置付けた「活用」

第１時では明治維新の経緯のあらましについて，小学校での学習や，前単元での既習事項を活用しながら資料の「読み取り」を中心に確認する場面を位置付けました。第２時から第４時では，諸改革の意味，意義の「解釈」と，諸改革の関連を図にまとめて「説明」する場面を位置付けました。第５時では前時までに作成した関係図に線を加えてつなげながら，明治維新の全体像をつかむ活動をまとめとして取り入れ，それらを活用しながら，明治維新を当時の政府と国民の視点で評価し，「論述」する場面を位置付けました。

「論述」にかかわる授業場面（５／５時）

学習の流れ

① 前時までに作成した関係図をもとに政府が行った諸改革を振り返りました。関連し合っているところを考えさせ，関係図に線を加えてつなげていきました。

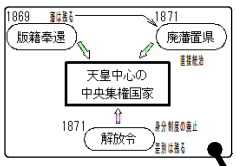
② 改革が与えた影響について教科書や資料集から調べさせ，関係図に書き加えさせました。

③ これまで学習してきた明治維新の諸改革によって，日本は「明るく治まった」のか，「治まるめぇ」なのか，既習事項や資料を根拠に自分の考えを書かせました。

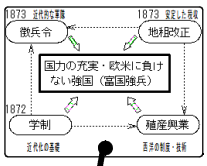
④ グループ内でそれぞれの考えを発表し合い，意見交換をさせながら，グループとしての考えをまとめさせました。

⑤ 各グループの考えを発表し合い，交流させた後，他の人の考えを聞いて感じたこと，学んだことを振りかえらせました。

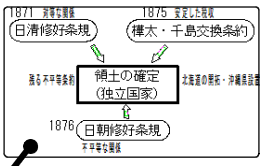
▼第２時の関係図



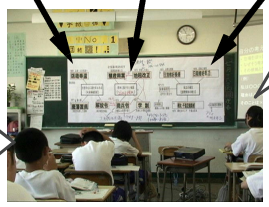
▼第３時の関係図



▼第４時の関係図



解放令と徴兵令はつながるな。四民平等で士族だけでなく，全ての国民が兵役の義務を負った



・徴兵令や地租改正に対する不満も強く，各地で一揆がおこった
・北海道の開拓は，アイヌの人々の生活の場を奪った

上からは明治〈明るく治まる〉なんぞと言うけれど
おさまるめい〈治明〉と下からは読む　「幕末落首」

「ややそう思う」殖産興業で工場ができたりして活気のある日本になったと思うが，一揆が起きたり，困る人もいたから。

「そう思わない」地租改正，徴兵令に反対する一揆が9年で508件も起きている。国民の不満は大きかったと思うから。

「そう思う」朝鮮とは日本にとって有利な条約を結ぶことができた。国力がついて植民地にならずにすんだから。

私たちのグループでは「ややそう思う」と判断しました。殖産興業や文明開化などによって近代化が進んで生活が良くなった部分もあります。ただし，反対の一揆が９年間で５０８件も起きているので，完全に明るく治まった　とは言えません。だけど，不平等条約が結べるくらいに国力があがったことで，外国の植民地にならずにすんだともいえます。

生徒からの声

・明治維新でおきた改革は，ほとんどが関連して互いにいろいろな影響をおよぼしているんだということがわかりました。
・教育や産業など，明治維新は今の生活に深く関わっていると思う。
・不平等な改革で不満を持つ人もいるが，国を強くするために工夫している。
・話し合う中で，いろいろ聞いて納得することもあって勉強になった。

「活用」を位置付けた授業実践２　－歴史的分野第１学年「武家政治の始まり」－

学習指導要領の内容

〔歴史的分野〕(3)中世の日本

ア　鎌倉幕府の成立，南北朝の争乱と室町幕府，東アジアの国際関係，応仁の乱後の社会的な変動などを通して，武家政治の特色を考えさせ，武士が台頭して武家政権が成立し，その支配が全国に広まるとともに，東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを理解させる。

単元に位置付けた「活用」

第１時から第２時では，武士が台頭し，やがて主従の結び付きや武力を背景にして東国に武家政権が成立したという，古代から中世への転換の様子を，既習の古代の天皇や貴族の政治との違いを「読み取り」，「解釈」させる場面を位置付けました。第３時では，承久の乱における御家人の行動を追体験させ，主従の結び付きや武力を背景にして，その支配を広げていった武家政治の特色について，「読み取り」，「説明」させる場面を位置付けました。第３時で習得した武家政治の特色を活用して，「読み取り」，「説明」，「論述」させる場面を第４時から第５時に位置付けました。

「読み取り」「説明」にかかわる授業場面（３／５時）

学習の流れ

① 鎌倉幕府が成立してから承久の乱に至るまでの経過を確認しました。

② 後鳥羽上皇の命令に対し，自分が当時の御家人ならば，どちらの味方につくのかを考えさせるために，資料①～③を読み取らせました。

③ 当時の御家人の立場として，朝廷側，幕府側，迷っているのどれかを選ばせ，その理由を既習事項や資料を根拠にまとめさせました。

④ 異なる立場の人と意見交流し，交流後の立場を明らかにさせた後で，資料「北条政子の訴え」を確認し，最終的な立場を考えさせました。

⑤ 全体で意見交流した後，承久の乱の結果について確認させました。

⑥ なぜ多くの御家人が幕府に味方したのか，承久の乱は幕府，朝廷にどんな影響を与えたのか，自分の言葉でまとめさせました。

資料①　当時の幕府側・朝廷側の支配地（略）

資料②　北条義時追討の宣旨

近ごろの鎌倉の政治は大変乱れている。将軍がいるといってもまだ幼児である。それで執権北条義時はなにごとにつけても尼将軍の北条政子の命令であるといって，政治や裁きを全国に及ぼしている。朝廷をおそれぬその仕業は，実に許しがたい。

よって，全国の武士たちに命令である。執権北条義時を打ち倒せ。（院宣とは別の密書で）この命令に従ったものには，ほうびは望むままに与えられると心得よ。

（「小松美一郎氏所蔵文書」ほか要約）

資料③　北条父子の会話

泰時「父上，これからの戦の時に，もし，上皇が自ら兵を率い，先頭に立って攻めてこられたならば，どういたしましょうか。私は、上皇に弓を向けても良いのでしょうか」

義時「泰時よ。もし上皇が自ら出陣されたときは，もはや我々は武器を捨て降伏するよりほかない。しかし，上皇が都にいて、その軍隊だけが攻めてきたなら，あくまで戦うがよい。」

（「増鏡」ほか要約）

北条義時は，上皇が自ら出陣したら降伏するしかないと言っている。上皇の力はまだまだ強そうだ。

今まで御恩と奉公の関係で信らいしてきたから，幕府を信じて。

上皇側が勝てるかくりつは高いが，ほうび（御恩）をもらえる幕府側にもいきたい。

今までの御恩を忘れてはいけない。幕府が乱れたとしても，御恩と奉公のしくみをくずしてはいけない。

御恩と奉公の関係を大切にした御家人のほとんどが幕府側についたため，幕府が勝った。幕府は西国にも勢力を広め支配した。一方，朝廷側は幕府に従わざるえなくなってしまった。

生徒からの声

・みんなが考えをかいて，みんなで伝えあってまとめていくのがわかりやすくてよかった。
・絵を（スクリーンで）見れてわかりやすく頭にけっこうはいりました。自分が御家人の立場で考えた時，とても分かりやすかった。
・マグネットで自分の意見を言えて挙手より言いやすかった。

授業実践を終えて

成果

- 「読み取り」にかかわる学習活動では，読み取る視点や方法を与えて読み取らせることや，小集団，全体での交流をとおして事実認識が図られることが把握できました。
- 「解釈」にかかわる学習活動では，図を使って学習内容や思考過程を整理する指導をすることで，事象の意味や意義をとらえることにつながることが把握できました。
- 「説明」にかかわる学習活動では，作業的・体験的な学習や，意思決定を行う学習などを取り入れて指導をすることで，思考力・判断力・表現力の育成を目指すとともに，説明する基となる事実認識につなげることも可能であることが把握できました。
- 「論述」にかかわる学習活動では，小集団，全体での学び合いをとおして，一面的な考察，判断にとどまらず，様々な角度から考察し判断することにつながることが把握できました。

課題

- 「説明」，「論述」にかかわる学習活動において，自分が考えたことを表現できなかったと感じている生徒がみられました。自分の考えを適切に文章等に表現する力を育成する手だてを工夫し，意図的・計画的に指導していく必要があります。

研究のまとめ

この研究によって，問題解決的な学習過程に「読み取り」「解釈」「説明」「論述」にかかわる学習活動を位置付けて指導していくことが生徒の社会的な見方や考え方の育成につながるという見通しをもつことができました。今後は，活用を意識した授業をどのようにつくっていけばよいのか，授業者がイメージしやすい指導展開例を幅広く作成し，広い活用につなげたいと考えます。

作成した指導展開例（一例）

中１年 歴史 「武家政治のはじまり」 ３／５時 承久の乱

本時の概要

朝廷と幕府の二重支配となっていた鎌倉初期にあって，「承久の乱」は武士の支配を全国に広げる転機となる大きな出来事でした。承久の乱における御家人の立場を追体験させることをとおして，既習の「御恩と奉公」の関係の大きさを実感させるとともに，承久の乱がもたらした影響について考えさせます。

学習内容の構造

- 承久の乱に勝利した幕府は、全国に支配を広げた
- 北条泰時が武家の最初の法典、御成敗式目を定める
- 上皇側の武士や貴族の土地は没収、上皇は配流となる
- 没収地に新たに地頭を、京都には六波羅探題を置く
- 幕府と対立した後鳥羽上皇が挙兵し承久の乱がおきる
- 頼朝の死後、北条氏が執権として幕府の実権を握る

指導のねらい

主従の結び付きや武力を背景にして，幕府がその支配を全国に広げていったことを理解させる。

展開例

課	学 習 活 動
導入	1 幕府成立から承久の乱までの経緯のあらましを確認する。 (1) 頼朝の死後，幕府内の勢力争いが続き，北条氏が執権として実権を握ったことを確認する。 (2) 北条氏と対立した後鳥羽上皇が挙兵したことを確認する。 2 学習課題を確認する。 **承久の乱 ～御家人はどちらに味方するべきか～**
展開	3 資料（上皇の命令と北条父子の会話）を読み取り，自分ならばどちらに味方するかを考える。 (1) 上皇側・幕府側・迷っているのどれかを選択し，そう考えた理由をまとめる。 (2) グループでそれぞれの考えを交流し，交流後の立場を明らかにする。 4 資料（北条政子の訴え）を確認し，最終的にどちらに味方するかを考える。 (1) 上皇側・幕府側・迷っているのどれかを選択し，そう考えた理由をまとめる。 (2) 全体で意見を交流する。 5 承久の乱の結果を確認する。
終末	6 なぜ多くの御家人が幕府側に味方したのか，承久の乱は幕府側，朝廷側にどんな影響を与えたのかをまとめる。 7 鎌倉時代の武士と庶民は，どんな暮らしをしていたのか，次時への課題意識を持つ。

活用 1 読み取り

1）承久の乱について、上皇側と幕府側の関係を複数の資料から読み取らせます。
2）読み取った事実と、前時までに学習した「御恩と奉公」「院政」等を基に、自分の立場とその理由を考えさせます。
3）グループでの交流をとおして、自分と異なる読み取りの視点や考えに気付かせます。

活用 2 説 明

1）全体での意見交流の後、実際の乱の結果について確認させます。
2）幕府側の勝因と、承久の乱が幕府側、朝廷側にもたらした影響について、意見交流をふまえてまとめさせます。
3）自分の考えをうまく文章にまとめられない生徒に対して、キーワードや文の書き出しを指示するなど個に応じた指導を行います。

活用 1 資料から上皇側と幕府側の関係を読み取らせる ○○○ 読み取り

あなたが当時の御家人ならば、上皇側、幕府側のどちらに味方しますか。資料を見て考えましょう。

資料①「当時の幕府側・朝廷側の支配地」（省略）

資料②「北条義時追討の宣旨」
近ごろの鎌倉の政治は大変乱れている。将軍がいるといっても未だ幼児である。それで執権北条義時はなにごとにつけても尼将軍の北条政子の命令であるといって，政治や裁きを全国に及ぼしている。朝廷をおそれぬその仕業は，実に許しがたい。
よって，全国の武士たちに命令である。執権北条義時を打ち倒せ。（院宣とは別の密書で）この命令に従ったものには，ほうびは望むままに与えられると心得よ。（「小松美一郎氏所蔵文書」ほか要約）

資料③「北条父子の会話」
泰時「父上，これからの戦の時に，もし，上皇が自ら兵を率い，先頭に立って攻めてこられたならば，どういたしましょうか。私は，上皇に弓を向けても良いのでしょうか」
義時「泰時よ。もし上皇が自ら出陣されたときは，もはや我々は武器を捨て降伏するよりほかない。しかし，上皇が都にいて，その軍隊だけが攻めてきたなら，あくまで戦うがよい。」
（「増鏡」ほか要約）

幕府側には御恩と奉公の関係があるけど、上皇は命令に従えば、ほうびは望むままといっている。

義時は上皇自ら出陣したら降伏するしかないと言っている。上皇は北条氏よりもえらい存在。

上皇は、将軍が幼なく、北条義時や北条政子が勝手に政治をしているのが許せないと言っている。

幕府が地頭を置くことができたのは東日本だけ。上皇側の力もまだまだ強かったのではないか。

留意点

- 複数の資料を用意し，必要な情報を選択，活用させます。自分の考えの根拠となる部分にアンダーラインを引かせる，ノートに箇条書きで書き出させる等させながら読み取らせます。
- グループで読み取ったことを交流させ，個人の段階で不十分だった部分を補わせます。

活用 2 承久の乱が与えた影響についてまとめさせる ○○○ 説 明

実際に承久の乱はどのような結果に終わったのか確認しましょう。

説明の流れ
①承久の乱の経過（勝敗）のあらまし，上皇の配流について確認する。
②承久の乱前後の鎌倉幕府の組織図を比較し，六波羅探題について確認する。
③承久の乱前後の守護・地頭配置図を比較し，新補地頭について確認する。
④北条泰時により御成敗式目が制定され，武家法の影響が広がったことを確認する。

なぜ、幕府側の勝利に終わったのでしょうか。乱の結果は幕府側、朝廷側にどのような影響を与えたのでしょうか。話し合ったことを振り返ってまとめてみましょう。

私は「迷っている」だったけど、北条政子の言ったように、御恩と奉公の関係を大切にしたいと考えた武士が多かったから幕府が勝ったと思う。この結果、幕府は東日本だけではなく、全国に支配を広げることができた。一方、朝廷側の力はおとろえてしまった。

僕は上皇側の味方だったけど、御家人たちは上皇や貴族に仕えていた昔の生活に戻りたくないと考えたから、幕府側に奉公したのだと思う。承久の乱に勝利した幕府は西日本にも支配を広げたが、朝廷は後鳥羽上皇が島流しになるなど、勢力が弱まった。

留意点

- 全体で考えを出し合いながら教師がまとめていく，「幕府の支配は…」など書き出しを示す，「御恩・奉公・西日本」などのキーワードを示すなど，実態に応じて段階的に指導します。

研究内容の詳細については，当センターWebページに資料を掲載しておりますのでご覧ください。作成した中学校社会科における知識・技能の活用を図る指導展開例についても同ページに掲載する予定です。（岩手県立総合教育センターWebページ　http://www1.iwate-ed.jp/）